

そっこんかんしょうこうぐん 足根管症候群

足根管症候群とは、足関節の内果の周囲において足根骨と屈筋支帯と呼ばれる線維性組織の間のトンネルで、神経が圧迫されておこる神経の障害です。(図 1)

足の裏や指先にかけてのしびれ感などの知覚異常が現れたり、なかには足首の内側に疼痛を生じることもあります。また夜間にシビレがひどくて眠れないこともあります。

さらに長期におよぶ場合は、足裏や指先の筋力が低下して歩行に支障をきたすこともあります。

原因
外傷後(骨折・脱臼)
ガングリオン
足根骨癒合症
静脈瘤
原因不明など

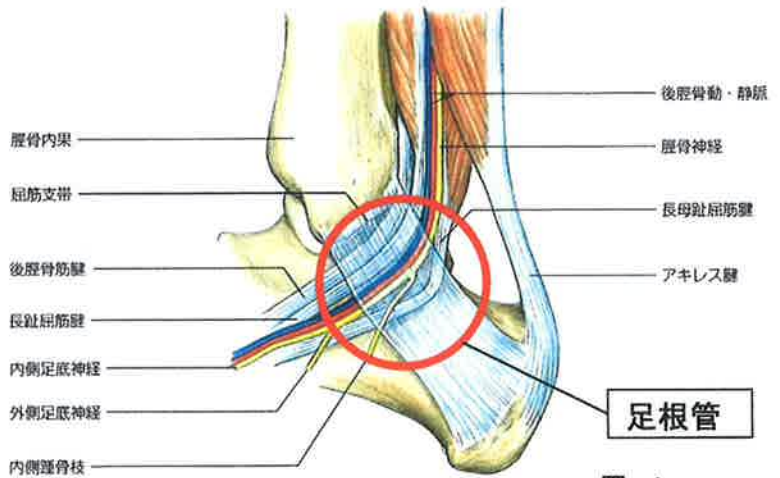


図 1

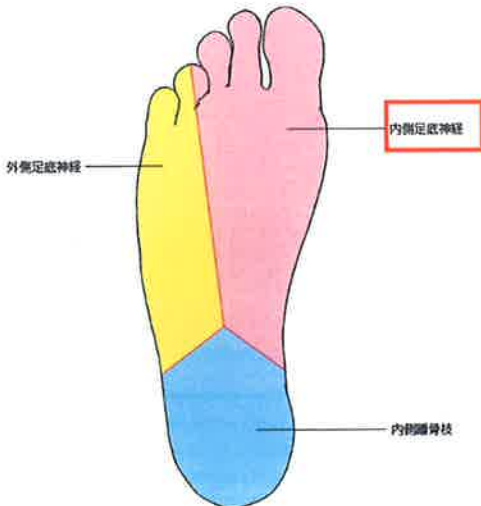


図 2

治療としては、安静・薬物療法・足底挿板などの装具療法などが行われます。

以上のような治療で、多くは症状の改善が見られますが、症状が改善しない場合や、長期間に及ぶ場合は手術療法を用いることもあります。

症状の多くは足裏内側の領域にしびれが出てきます。(図 2 のピンクの範囲)

ご不明な点がございましたら、スタッフにご相談ください